



第55回 若布献上 玄界灘の天然若布を皇室へ献上

三月十七日、早春の玄界灘の天

然初物若布を賢所、天皇皇后両陛下、皇太子同妃両殿下、三笠宮家、加え本年は秋篠宮家、高円宮家、常陸宮家へ葦津宮司、中村忠彦氏（宗像漁業協同組合組合長）、宮本昭則氏（宗像漁業協同組合副組合長）、随行神職一名が宮中へ参内し、恙無く献上申し上げた。この皇室への献上は、昭和三十八年に始まり、本年度で五十五回目を迎えた。

今年の若布は順調に育ち、二月二十日頃より地島沖にて採り始め、濃緑で磯の香りの強い良質な若布が採取され、伝統的な技法で奉製された乾燥若布が三月六日、当社に納められ献上準備が進められた。

十六日の午前九時五十分、本殿

にて奉告祭を斎行し、出社した。福岡空港では献上者をはじめ、例年若布を運んでいた全日本空輸(株)の皆様が参列し、当社巫女より客室乗務員への手渡し式が行われ、若布は機内へ運ばれ上京した。

献上当日の十七日午前十時十分、坂下門より宮中へ参内。葦津宮司が若布献上の旨を言上、賢所、天皇皇后両陛下に献上を申し上げた。宮中を辞した一行は、皇太子同妃両殿下を始め各宮家へ向い献上申し上げ、ここに宗像大社並びに宗像大社海洋神事奉賛会春の重儀「若布献上の儀」を無事に終えることができた。